

住宅火災における最適な避難の ガイドラインの策定について ～ 火災を自分事に ～



岡山県 岡山市消防局

事例類型 | 実効性向上

取組期間 | 令和3年4月から

背景

全国的に火災は減少傾向である一方、火災による死者の数は減っていない。そのような中、現在、火災を起こさない方法と避難に有効な住宅用火災警報器の設置・点検を促進する広報を実施している。

当局では、これらの取組に加え、直接的に死者を減らすための「最適な避難方法」について、有識者を交えた検討会を2年間かけて行い「住宅火災における最適な避難のガイドライン」（以下「ガイドライン」と称す。）を策定した。（図1）



図1 思考展開図

内容

検討会においては、大きく3つの視点を重視した。

① 過去から学ぶ(教訓)

過去に管内で発生した173人の死者の避難行動など火災調査書から分析した。その中でも昭和25年に発生し、16人が犠牲となった岡山県聾学校寄宿舎火災などの教訓を取り入れた。（図2）

② 現在で検証(今だからこそできる技術)

模擬家屋で燃焼実験を行い、燃焼スピードや、室内の温度変化をデータとして得た。また、VRにより仮想空間内で住宅火災を再現し、高齢群と若齢群の行動の違いをデータとして得た。（図3）



図2 岡山県聾学校寄宿舎火災



図3 VRを使用した実験風景

③ 未来へ紡ぐ(自分事として活用、見やすい内容に)

①、②で得られたデータをまとめて、ガイドラインを策定した。ガイドラインには、火災を自分事として考えてもらう市民向けの内容と、ガイドラインを展開していくうえで、連絡調整が必要なステークホルダー向けの2部構成となっている。

その他、ガイドラインを効果的に展開していくためのパンフレット、VRやカードゲーム等の火災予防広報ツールについて検討した。（図4）いずれにおいても、いかにより成果や分析結果が出たとしても、使われなければ意味を持たないため、どうすれば日常に溶け込ませるかを多角的、総合的に検証した。



図4 火災予防広報ツール

成果

ガイドラインの展開

火災予防広報ツールを活用し、様々な場面においてガイドラインの展開を図った。

① 火災発生時に周辺の家に配布

住宅火災が発生した近日中に、近隣住民に対してパンフレットを活用した戸別訪問を実施した。今までになかったアプローチであり、ほとんどの住人が自分事のように話を聞いてくれた。（R5年度実施数:551世帯）

② 公民館、小中学校、大学での実践(図5)

VR、カードゲームやパンフレットを活用して、公民館での防火講座、各学校での出前授業を実施した。公民館の講座では、住宅火災の死者で最も多い高齢者層を中心に展開することができた。また、各学校での出前授業では、次世代の防火・防災の担い手となる学生等に対してアプローチすることができた。

このことから、火災予防広報ツールを活用することで、幅広い年齢層に対しても、効果的にガイドラインを展開できることが分かった。（R5年度実施数:2,603人）



図5 出前授業の様子

③ 市営住宅への展開(図6)

住民が高齢化している市営住宅に対して、指定管理者及び所管課と協力して、戸別訪問を行った。住民へのアンケートから、「住宅火災について考えるきっかけになった」という声が多く見受けられた。この取組は、指定管理者のみで継続的に実施されており、消防職員がいなくても展開できる内容であることの裏付けとなった。（R5年度実施数:600世帯）



図6 市営住宅戸別訪問の様子

④ ステークホルダーへの展開

女性防火クラブなどの自主防災組織に対して、パンフレットの説明を行った。今後、各クラブ員が活用していくことで、消防からの一方向ではなく、家庭や地域からのガイドラインの展開が見込める。

最後に

火災が起これば誰もが「何をすれば」とパニックになる。消火器も使えない。このような状況の時、自分ならどうするかを考えてもらうことで一人でも多くの命が救われることを願う。

特記事項

ガイドラインは令和7年度までの3年間を見据えた計画を記載している。今後は、市広報紙への掲載、消防署や市有施設、公民館でのパンフレット配布を予定している。

なお、検討会の議事録、ガイドライン、パンフレットは岡山市消防局のホームページに公開している。

選考委員のコメント

過去に管内で発生した火災事例について火災調査書を用いて避難行動を分析し教訓化していること、また、模擬家屋燃焼実験によりデータ収集したうえでVRを作成し防火啓発に活用していること、さらにこれらに基づき避難のガイドラインを作成したことは非常に優れた取組である。